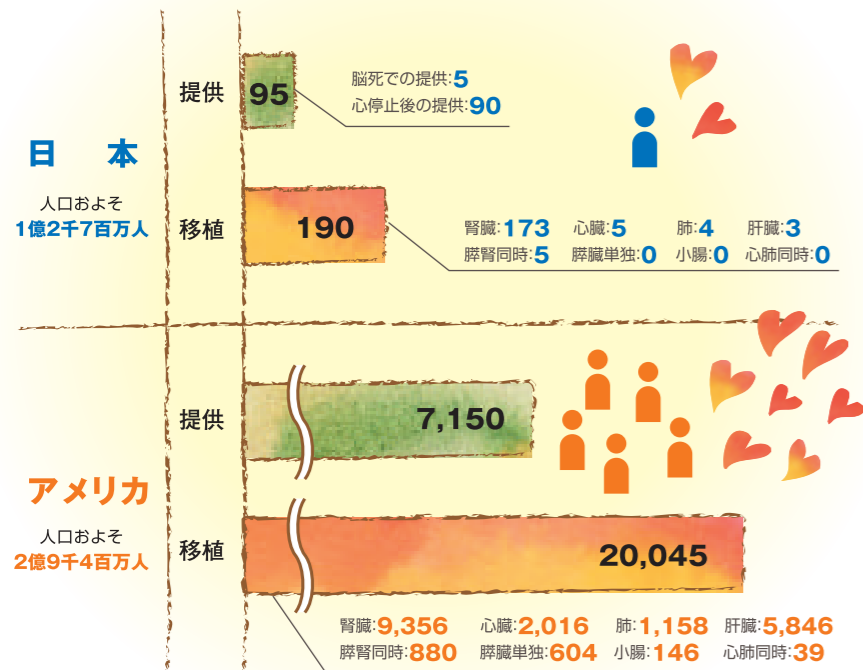


One Point Data

ワンポイント・データ

日本とアメリカの死後の臓器提供数と移植数

(2004年)



日本とアメリカでは、人口がおおよそ1対2であるにもかかわらず、死後の臓器提供数は75倍も違います。一人の臓器提供は、心臓や肝臓など数人の移植につながるため、移植数の比較ともなると、およそ100倍も違います。

今、日本で臓器移植を待つ方はおよそ1万2千人。アメリカの移植数から換算すると、1年で待機者のほとんどが移植を受けられることになります。ところが実際には、2005年9月までにのべ約29,000人の方が移植を希望してネットワークに登録しましたが、移植を受けられたのは約1,700人でした。ほとんどの方が、やむを得なく生体移植や海外渡航移植に切り替えたり、登録を取り消したり、移植を希望しながら亡くなられています。

日本でも移植によって多くの笑顔や希望が輝くために、今、私たちができることを考えてみてください。家族と話し合って、意思を表示してください。

詳しくは、<http://www.jotnw.or.jp/datafaile/offer.html>

臓器移植を受けたその日から、新しい人生がはじまりました

今回、この冊子に感謝と喜びのメッセージを寄せていただいた方が登場しているCM、ラジオ、ポスターをご存知ですか？

6才、1才...は、臓器移植を受けてから経過した年月で、ドナーとご家族によって贈られた新しい人生の歩みを表現しています。

多くの方々にこの笑顔を見ていただけるよう、ポスター掲示にご協力ください。発送請求は下記へ。



臓器提供に関するお問合せ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-5-16 晩翠ビル3階

携帯電話からは

☎0120-78-1069 ☎03-3502-2071



<http://www.jotnw.or.jp> にもさまざまな情報が掲載されています。



JOTNW (社) 日本臓器移植ネットワーク

臓器を提供してもよいという人(ドナー)やその家族の意思を生かし、臓器を提供してもらいたいという人(レシピエント)に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

●医療機関の皆様へ

臓器提供意思表示カード・シールに臓器提供の意思を表示している患者さんのご家族からカード等の提示や「臓器提供についてコーディネーターの話を聞きたい」とのお申し出がありましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。

また、心停止後の臓器提供は、意思表示カード等がなくともご家族のお申し出だけでできますので、ご家族にご希望があればお知らせください。

ドナー情報には 24時間対応しております

ドナー情報用フリーダイヤル ☎0120-22-0149



臓器移植経験者の手記

think transplant vol.2

移植を受けたその日から、
新しい人生がはじまりました。
その思いをもっと伝えたくて。

いのちの贈りもの
～あなたの意思で助かる命～

think transplant Vol.2

臓器移植を受けたその日から、新しい人生がはじまりました。



私は、臓器移植手術を受けて約6年になりました。手術前は、自分で動くのもままならず、生死の境目を行ったり来たりしていました。そんな私が、手術後1週間で、自分で歩くことができました。また、体が嘘みたいに静かで、苦しさもなく、すごく落ち着いていました。それからは、日に日に体調が回復し、今までできなかったことができるようになるたびに、感動の連続でした。そして、退院し家に帰れたときは、なんともいえない気持ちがこみ上げ、涙が止まりませんでした。移植手術を受けたからこそ感じるのかもかもしれませんが、命の大切さ、時間の大切さを、私たち移植を受けた患者

は感じています。言葉で言うのは簡単かも知れませんが、脳死移植という医療は、ドナーとご家族の方はもちろんのこと、移植を受ける患者にとっても、とても大きな壁を乗り越えなければなりません。そして、その壁を乗り越えたからこそ感動も大きく、また、生きている時間を大切にしようと、前向きに頑張れるんだと思います。現在移植を夢見て、待機している多くの患者さんも、辛く苦しい



もうすぐパパになります。

体調中、たくさんの壁と戦っていると思います。最後の壁を乗り越えて、私と同じ感動や喜びを感じてほしいと心から願っております。移植後に結婚し、今年、子供を授かりました。子供が大きくなったら、「お父さんの体の中には、たくさんの人たちの心(気持ち・愛情)が詰まっているんだよ。そして、あなたが生まれたんだよ」と伝えたいと思います。ドナーとご家族の方、また、お世話になったたくさんの方々に、心より感謝申し上げます。そして、これからもよろしく申し上げます。

何とも言えぬ倦怠感と混乱している頭。全身麻酔が切れかけて徐々に覚めていく意識の中で鋭い痛みが走り「足曲げたらだめ、動いたらだめ!」と言う看護師さんの言葉で目が覚めました。「そうだ、手術したんだ…」あれから7年。手術日と同じ毎月の日、感謝の気持ちで欠かさずお参りした1年、状態の安定しない2年目、手探りの3年目、やっと落ち着いた4年目。



I Love SPORTS!

元気にさせていただいた「感謝と何か役に立てること」は、まず私が元氣になれた姿をたくさんの人に見てもらって、移植医療の理解を広めて、深めていただくことだと思っています。私の新しい人生はドナーとご家族がいたからこそ…。今年も元氣に世界移植者スポーツ大会に参加しました。一人で歩み出せた新しい人生ではなく、たくさんの人達の手を借りて成し遂げられたこと。この新しい人生は全てドナーとご家族から頂いた大切な、やさしさと思いやりだと思っています。体調に留意し、これからもドナーと共に元氣に歩んで行きたいと思っています。

移植をうける前の3年間の待機期間には、補助人工心臓のポンプが壊れたり、機械が壊れて止まってしまったりといろいろあり、常に死が頭の中にありました。ポンプのコツツという音に、時の流れを感じ、朝がくれば今日も生きてるなあと思ったり不安にな



ショッピング大好き。

1オ
今楽しく毎日過ごすことが出来るのも、ドナーとご家族のあたたかい気持ちと理解があつてのことだと心から感謝しています。

ることもありました。そんな時、いつもそばにいてくれた母や家族そして医療スタッフの皆さんに、本当に心から助けていただきました。移植後は、以前の自由のきかない生活とは全く違い、ショッピングや散歩、旅行へも出かけることができるようになりました。最近、自動車の免許も取ることができました。補助人工心臓をつけていたころに夢にまで見た生活が今おこなれていることをとても幸せに思います。そして今まだ、頑張っている大勢の患者さんのためにも、もっとたくさんの人達に移植医療の素晴らしさを知ってもらいたいと願っています。

私たちは、移植後、知人を通して知り合い、今年入籍しました。結婚したことによっていつも二人になりました。たまたま私たち二人が移植を受けたことは事実ですが、二人ともが移植者と結婚したいと思っていたわけでは無く、また、結婚も出来るとは思っていませんでした。CMではとても元氣そうに映っていて、よく、「移植したようには全然見えない」と言われます。移植前のとてもひどい状態を見て知っている方は非常に喜んでくれますが、パッと見は本当に普通のカップルに見えます。町を歩いていても誰も私達を移植者とは思わないでしょう。しかし、ここに至るまでには本当に辛い思いをたくさんしてきました。今の私たちが存在するのも、結婚ができたのも、やはりドナーとご家族のお陰としか言いようがありません。移植と言う医療は、そんな私達をこんなに幸せにしてくれたのです。



結婚しました。

5オ 3オ